

テーマ 4. ワクチンについて迷ったら、

予防接種

当院では、毎週月曜日と水曜日の午後に、予防接種外来を行っています。事前予約制です。近年予防接種で防げる病気が増え、赤ちゃんが接種する必要があるワクチンも増えています。ワクチンの定期接種は生後 2 か月からスタートします。接種を希望される方は、お気軽に小児科外来へお問い合わせください。また、予防接種のうち忘れなどに気づいた方のキャッチアップスケジュールの相談も行っています。

●ワクチンについて

ウイルスや細菌などの病原体は、私たちの体に入ると病気を起こそうとします。病原体を倒して病気を起こさないようにする免疫システムが、私たちの体には備わっています。初めて入ってきた病原体には免疫を作るまでに時間がかかりますが、一度覚えた病原体に対しては、多くの場合すぐに対応して病原体を倒すことができます。

ワクチンとは、免疫を私たちの体を作るためのお薬で、病原体の病気を起こす力を弱めたり、全くなくしたりしたものです。病原体の成分が残っているため、ワクチンを接種すると私たちの体は病原体が来たと思い、その病原体に対する免疫を作ります。すると、実際には感染したことのない病原体が体内に入ってきたときにも、すぐに免疫システムが働いて病原体を倒します。

●子宮頸がんワクチンについて

子宮頸がんは年間約 1 万人が罹患し、約 2,800 人が死亡する疾患であり、特に若い世代での罹患の増加が問題となっています。子宮頸がんの 95% 以上は、ヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスの感染が原因であり、性交渉の経験がある女性のうち 50%～80% は、HPV に感染しているとされています。そのため、初めての性交渉を経験する前に接種することが最も効果的で、90% 以上の子宮頸がんを予防するとされています。

2022 年 4 月より定期接種の積極的接種勧奨が再開、17 歳から 25 歳までの女性への無料キャッチアップ接種が開始されています。

平成 28 年 12 月に厚生労働省研究班(祖父江班)の全国疫学調査の結果が報告され、HPV ワクチン接種歴のない女子でも、HPV ワクチン接種歴のある女子に報告されている症状と同様の「多様な症状」を呈する人が一定数(12～18 歳女子では 10 万人あたり 20.4 人) 存在すること、すなわち、「多様な症状」が HPV ワクチン接種後に特有の症状ではないことが示されました。子宮頸がんの予防効果のため、接種をお勧めします。

●ワクチンで防げる病気

具体的にワクチンを接種することでどのような病気から身を守ることができるのでしょうか？ワクチンで防げる病気 (Vaccine Preventable Diseases : VPD とも言います) はたくさんあり、主なものを下に列挙します。

- ・ヒブ感染症 (細菌性髄膜炎など)、肺炎球菌感染症 (細菌性髄膜炎など)

- ・ B 型肝炎
- ・ ロタウイルス胃腸炎
- ・ ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ
- ・ 結核
- ・ 麻疹（はしか）、風疹、水痘（水ぼうそう）、おたふくかぜ（ムンプス）
- ・ 日本脳炎
- ・ インフルエンザ
- ・ ヒトパピローマウイルス感染症（子宮頸がんなど）

いずれも、発症すると子どもの命に関わる可能性のある病気です。これらの病気は、ワクチンを接種することでかからない、もしくはかかっても軽く済むようにできます。例えば、ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）による細菌性髄膜炎は、3～7%が死亡し、15～20%で脳に後遺症が出る怖い病気です。ワクチン導入前は 5 歳未満の 8.6～8.9 人/10 万人が発症していました（生後 2 か月～5 歳までの間に 2000 人に 1 人が罹患）が、ワクチン導入後は、2013 年が 0.17 人/10 万人、2014、2015 年は 0 人/10 万人と、罹患率が大きく減少しました。

●よくある質問

Q1 ワクチン同時接種は可能ですか？

可能です。複数のワクチンを同時に接種しても、それぞれのワクチンの有効性が下がることはありません。また、それぞれのワクチンの有害事象の頻度が上がることもありません。小さいお子さんが接種する必要のあるワクチンはたくさんあります。お子さんを早いうちに病気から守るためにも、保護者の来院回数を少なくするためにも、同時接種をおすすめします。

Q2 卵アレルギーがありますが、ワクチンを受けることはできますか？

多くの場合、接種できます。インフルエンザワクチンには、ごく微量の卵成分が含まれていますが、ほとんどの卵アレルギーのお子さんにとって問題にならない量です。そのため、卵アレルギーで全身症状やアナフィラキシーを起こしたことがなければ、通常は接種可能です。重い卵アレルギーのお子さんでは、ワクチン成分が体内に入っても症状が出ないかどうかを確かめる「皮内テスト」を行うことがあります。

Q3 軽い風邪症状がありますが、ワクチンを接種できますか？

接種前の診察で、医師が問題ないと判断をすれば接種できます。ご心配があれば受診時に 医師やスタッフへお伝えください。一方、37.5℃以上の発熱があるときや、風邪症状が強い 場合、元気がない場合などは、ワクチン接種を延期しています。

Q4 先月、川崎病になり免疫グロブリン療法を行いました。ワクチンを接種できますか？

不活化ワクチンは接種可能ですが、生ワクチン（麻疹風疹、水痘、おたふくかぜワクチン）は接種できません。これは、十分な免疫ができない可能性があるからです。川崎病に限らず、免疫グロブリン療法の後は、確実に免疫を獲得するために生ワクチンを一定期間延期する必要があります。接種可能となる時

期については、医師へお尋ねください。

Q5 ロタウイルスワクチンはいつまで接種できますか？

1 回目を 14 週 6 日（約 3 か月半）までに受けてください。当院ではロタリックス（1 価 ロタウイルスワクチン、計 2 回接種）を採用しており、2 回目が 24 週 0 日（約 5 か月半）を過ぎると接種できません。1 回目を、生後 2 か月のヒブ、肺炎球菌、B 型肝炎と一緒に接種することをおすすめします。

Q6 ワクチンを接種した日に、お風呂に入っても大丈夫ですか？

大丈夫です。生活環境の整備により、入浴時に接種部位の感染を受ける可能性は極めて低いため、入浴は差し支えないと考えられています。接種当日は普段通りの生活をしてよいですが、水泳やマラソンなどの激しい運動は避けてください。